2020-21 年度テーマ

ロータリーは機会の扉を開く

第 2670 地区

宿毛ロータリークラブ会報

■会長　高瀬　一也
■幹事　有田　裕彦
■ＳＡＡ　西田　教世
■クラブ奉仕委員長　保田　孝司
■職業奉仕委員長　池　和明
■社会奉仕委員長　筒井　大八
■国際奉仕委員長　増田　博和
■青少年奉仕委員長　二神　雅彦

■例会日：毎週木曜日　12:30～13:30
■例会場：宿毛市幸町　秋沢ホテル
■事務所
〒788-0003　高知県宿毛市幸町 6-43
TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417
URL　http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/
E-Mail sukumorc@mb.gallery.ne.jp

例会報告　第２７１６回　令和３年４月２２日（木曜日）　天気：晴

■例会司会：西田 SAA
■開会点鐘：高瀬会長
■Ｒソング：奉仕の理想
■お客様　：

四つのテスト　言行はこれらに照らしてから
１．真実かどうか
２．みんなに公平か
３．好意と友情を深めるか
４．みんなのためになるか　どうか

■会長報告　高瀬会長

皆さんこんにちは、だんだんと凄い事になっているような。毎回コロナの話になりますが、非常事態宣言が出るような地区もあるようですが、なかなか終息が見えて来ない、今年度はこういう状態が続いて終わってしまうのかなと思いますが､例会が毎週に復帰出来ましたが皆さん気を付けてとお願いしたいです。来月､地区大会もありますがそのあたりもどうなるのか心配な所ではあります。先週はロータリーの森の整備に参加していただいてありがとうございました。天気も良かったので草刈りや整備、地区補助金の為の写真撮影をしました。皆さん、普段の行動、うがい、手洗い、マスク、3 密を避けるという事を引き続きしていただきたいと思います。

■幹事報告　有田幹事

■ガバナー事務所より：
・2021-22 年度　地区補助金支給の内定について
■松山東ロータリークラブより：
・松山東ロータリークラブ　例会変更のお知らせ
■宿毛地区地域安全協議会より：
・令和 3 年度宿毛地区地域安全協議会役員会及び定期総会の開催について

欠席届　８名

■委員長報告

ＩＭ実行委員会　池委員長

テーマですが、『地域に生かす防災活動』というテーマにさせていただきました。日程は来年の 2 月 19 日の土曜日を予定しています。

■プログラム　筒井会員

卓話　野崎会員

自分の職業の話をしたいと思います。私は昭和39年5月24日生まれです。辰年で前回の東京オリンピックの開催された年です。同じ年に東海道新幹線、東京から新大阪の開通の年でした。出身地は香南市野市町、妻と長男次男の4人家族です。子供は既に独立してまして二人とも東京で勤務しております。高知には居ませんので、現在私は単身で来てますので4世帯に分かれて生活をしています。宿毛支店に赴任してくるまで最近の休日は専ら野市町の田舎の方に誰も住んでない屋敷がありまして、そこの草刈りとか田んぼやちょっとした山林もありまして、そこの管理で結構忙しくて更に高知市内にも他界した父母の屋敷がありまして、ここも草刈りが大変でして、結構忙しい日を送っておりました。結構田舎で、自分のペースで色んなことが出来ますので、日常忙しいんですけど仕事の息抜きにはなる良い時間だったかなと思います。

学校は付属小中学校を出まして追手前高校から日本大学の文理学部に進学して卒業しました。昭和63年4月に株式会社四国銀行に入行しました。最初の配属支店が須崎支店でして、その後は香川県徳島県大阪東京と転勤しまして現在の宿毛支店、14店舗目の店舗となります。光陰矢の如しとは良く言ったもので入行してはや勤続34年目を迎えております。支店長としては高知市役所支店を皮切りに現在5店舗目となります。

私が入行した昭和63年には、おニャン子クラブ、工藤静香、光ゲンジなどのアイドル全盛期で、また長渕剛の乾杯などが流行った年でした。東京ドームが開場した年でもあります。猛烈に働く企業戦士の必須アイテムとして一世を風靡した『24時間戦えますか？』のリゲインが登場した年でもありました。

当時の就職活動は景気が今一つでありましたので、意外にも就職氷河期で結構厳しい年でもありました。銀行に入行した翌年には平成に入りまして、今としては夢か都市伝説のようなことが現実であったバブル期へと時代は移り変わって行きました。定期預金の金利は8%台まで上昇しました。一千万円を預けると金利が八十万円、当時郵便局などでは十年定期がありましたので、十年で満期を迎えると元金が二倍になって返ってくるとそんな時代です。当時退職した公務員の方などは、退職金二千万円を貰うと一年預けると金利で年間百六十万円なので、一年使わずに置いておくと、この百六十万円と年金で生活出来ると言う事で元金が一生減らないと、そんな夢のような計算をしていた方も多かったと思います。当時は金利が沢山ありましたので消費も好調でした。都会の方では一万円札を振らないとタクシーが止められなかったとそんな伝説もあったようです。しかしそんな時代は長くは続きませんでした。そんな時代の流れを経験する中、私の銀行員時代の駆け出し銀行員として思い出深い入行八年目で、30歳となった4店舗目の香里支店の話をしたいと思います。

『香里支店』は大阪府寝屋川市、最寄り駅は京阪電鉄『香里園駅』にある店舗で営業エリアは寝屋川市と枚方市が中心でした。この『香里支店』で学んだのが、不動産融資に関する業務知識です。バブル崩壊後の金融緩和政策で当時の公定歩合が段階的に引き下げとなり、金利が低下したことで個人が利用する住宅ローン金利も低下基調となり、一戸建て住宅や分譲マンション建設ラッシュで不動産業界は当時活況を呈していました。住宅ローン減税の拡充の政策も個人の住宅取得意欲をさらに押し上げする効果があったと思います。

営業エリア内には昭和初期に建てられた古いアパート(当地では文化住宅と呼称される集合住宅の事)を取り壊し、跡地が買い上げられ一戸建て住宅の建売が盛んに行われていました。当時の取引先の宅建業者は50～60坪の土地を仕入れることが多く、仕入れたその土地をどうすれば3戸に区画して住宅を建てるか、知恵を絞っていました。そしてその極小な土地にマッチ箱を直立させたような3階建ての住宅があちらこちらに建っていきま

した。一戸あたりの敷地面積は18坪程度で隣の家との境は、人がすり抜けることも困難である幅しか空いていません。壁が壊れたらどうするのだろうと不思議でありました。当時のこの3階建ての一戸建ての価格がサンキュパ(3,980万円)、1戸売れば粗利がざっと3割程はあり儲かっていましたね。現代では3割の粗利が稼げる商売はなかなかないと思います。当時の宅建業者は銀行からお金を調達する際には金利の高い安いはほとんど話題に上がりませんでした。金利よりも金額(土地の仕入れ資金としておたくの銀行はなんぼ出してくれるのかと言う、金額の方が大事でした)。先程の50～60坪の土地に3戸の建売をする1つのプロジェクトで3,000万円内外の粗利が稼げるのですから金利は大した問題ではなかったのです(ちなみに当時の不動産業者向けの金利は8～9%台であったと記憶しています)。サンキュパ(3,980万円)の建売住宅は大阪の郊外にしては割安感があり、また夢のマイホームに手が届く価額設定であったことから、広告を出せば完成を待たずに即座に完売となっていました。そこで宅建業者はいかに次のプロジェクトとなる住宅用地を他社に先駆けて仕入れて、一戸建てを販売するかの競争でした。隣り合った土地の値段が1ヵ月違えばどんどん上昇するのですから、銀行でいかに資金調達のめどをつけ早く、安く仕入れるかが勝負でした。
また宅建業者には土地資金と合わせて建物建築資金も協力していましたし、何よりも有難かったのは建売住宅を購入するお客さまは殆ど住宅ローンを組まれましたから、そのお客さまを宅建業者からご紹介していただくことで、次々と住宅ローンのご利用につながり残高も面白いように増えていきました。まさにwin-winの関係でお客さまと銀行が共に業績を伸ばした時代であったと思います。
訳ありの土地で長年手が付けられなかった物件などに対しても、取引先の宅建業者はあの手この手で話しを纏めて売買に繋げていましたね。のちにその物件を購入するまでの経緯を聞いて、大阪の不動産事情のなかには我々が知り得ることの出来ない怖い世界も存在していたのだと感じたことを思い出されます。
この不動産に関連する融資を中心に支店の残高は伸び続け、多忙を極めた日々は続きましたが、私自身は心身ともに充実をした日を過ごしていました。この頃は仕事に打ち込み、気がつけば毎日夜10時頃。疲れてはいましたが、帰宅途中の『枚方市駅前』の居酒屋で先輩や同僚と一杯引っ掛けて帰るのは至福の時間でもありました。一方で家族の事は顧みず、子供はいつも寝ている姿しか見ていなかったと言う苦い思い出が浮かびます。今、働き方改革などという、働き手に優しい時代ではなかったことは、ここにいらっしゃる皆さま誰もが認めるところであると思いますが、本当にみんなが猛烈に仕事に取り組んでいた時代であったなと思います。
当時は仕事を持ち帰って土日もずっと家で仕事をして、月曜日までに仕上げて稟議書を提出するということを繰り返していましたが、ある時仕事が本当にでき尊敬する先輩から「仕事も遊びもこの大阪にいる間に思いっきりやらんといかん! 特に遊びでは家族との時間を大切にせんといかん」と言う話をいただきました。それからというものは先輩が実践していた土日のどちらか1日は仕事を集中的にやって、残りの1日は家族との時間を大切にする。思い出を残すことが大事で、何処に家族で出掛けるという生活スタイルに切り替えてみました。そうすると、今まで土日2日間かけて漫然と時間が過ぎるなかで何とかギリギリ仕上げていた仕事が1日のうちに集中的に仕上げることが出来るようになり、その出来栄えも満足する内容のものとなっていきました。
それからという週末は、家族といろいろなところに出掛けましたね。特に京都へは社宅から電車で40分、車で1時間程で気軽に行ける立地でしたので毎週と言って良いほど出掛けていました。京都では史跡巡りや長男が電車好きでしたので京都駅の高架からJR 私鉄の様々な電車が通り過ぎるのをひたすらずっと眺めたり、鉄道博物館へ通ったことなどが思い出されます。神戸や奈良、和歌山、鈴鹿サーキット、伊勢神宮等へ遠出したことも思い出となり、当時の写真は沢山残っており家族の大事な財産となっています。
ここで、そろそろ卓話の締めをしたいと思いますがお話したかった事は、家族との時間を大切にすることに私は早く気が付けて良かった、そして早く気が付けたことで今の家族があるんだなと振り返ることが最近多くなりました。こんな私を今まで支えてくれた家族に感謝です。

■出席報告

５４．１７％